

香港の生鮮果実市場

米国農務省GAINレポート 2024年1月23日

これは米国農務省海外農業局の香港農業貿易事務所が作成した「香港の生鮮果実市場」報告書を訳したものであり、米国の公式見解及びデータとは異なる場合があります。

要旨

香港の農地は限られている。2022年に香港の農業(畜産と耕種)が産出したのは、約1億7,300万ドル相当の生鮮食品であった。したがって、香港は730万人の住民を養うために生鮮食品の輸入に依存している。香港の食品輸入制度の開放性と、幅広い果実を求める旅行者好きな消費者によって、この都市は生鮮果実の大規模かつ競争力のある輸出先となっている。香港の消費者は健康志向であり、果実は毎日の食生活に欠かせないものである。2022年の米国から香港への生鮮果実輸出額は、前年比27%減の1億500万ドルであった。パンデミックによる価格の高騰と海運物流の混乱が、2022年の下落の一因であった。とはいえ、米国の生鮮果実の輸出は2023年に回復し始め、2023年の最初の10か月で20%増加した。米国の果実輸出の中で、香港で最も売れているのはオレンジ、サクランボ、リンゴ、イチゴ、ブドウである。

セクションI 市場の概要

香港の域内の果実生産量は極めて少ない。香港農水産自然保護局(AFCD、漁農自然護理署)のデータによると、香港で生産された生鮮果実の品目は、パパイヤ、スイカ、レッドドラゴンフルーツ、プランテイン、ライチ、リュウガン等、極わずかである。

2022年の米国から香港への生鮮果実輸出額は、2021年と比較して27%減少し、1億500万ドルとなった。COVID-19のパンデミックによる価格の高騰と海運物流の混乱が、2022年の下落の一因であった。とはいえ、米国の生鮮果実の輸出は2023年に回復し始め、2023年の年初からの10か月で20%増加した。香港の消費者は、オレンジ、リンゴ、サクランボ、ブドウ、イチゴ等、米国産の様々な果実を好む。米国から輸入される果実の中で、柑橘類は最も人気があり、香港は2022年に7,100万ドルを輸入した。米国以外の主要な果実輸出国は、チリ(サクランボ)、タイ(ドリアン)、ペルー(ブドウ及びクランベリー)、日本(イチゴ及びリンゴ)等である。米国は2022年に南アフリカに次いで香港にとって2番目に大きなオレンジの供給国となった。香港市場では、その品質から米国産のオレンジが広く好まれている。香港は果実輸入の70%を再輸出しており、主な輸出先は中国本土(98%)で、その総額は26億ドルである。この再輸出のパターンは長年にわたって一貫している。約10億ドル相当の果実は、香港での消費に確保されている。

セクションII 香港の生鮮食品貿易

(ア) 香港の輸入

香港の2022年の世界からの生鮮果実輸入額は、2021年と比較して18%減の37億ドルとなった。この全体的な減少傾向は2023年の年初からの10か月間も続き、輸入額は前年比で27%減少した。米国は第5位の輸入先国であり、香港の果実輸入全体の5%を供給している。2018年以降、香港の果実市場はチリとタイに席捲されている。

チリ産サクランボは、同国から香港への果実輸入額の82%を占めている。米国もサクランボを供給しているが、チリのサクランボは米国のサクランボとは季節が異なる。米国のサクランボは4月から7月の間に熟すが、チリのサクランボは(米国の)冬の季節に成熟する。香港の家庭では通常、冬にいくつかの祝日(クリスマス、新年、旧正月)があるため、果実は家族の集まりの際や贈り物としてよく使用される。したがって、この時期には、高品質なプレミアム果実に対する大きな需要がある。

一方、タイ産のドリアンは、タイから香港への果実輸入額の76%を占めている。この熱帯果実は、その本物の味、柔らかな食感、甘い風味のため、香港の人々に特に好まれている。ドリアンを栽培する世界的な輸出国は多くないため、タイはこの市場を支配しており、果実全体の売上高に占めるシェアも拡大を続けている。

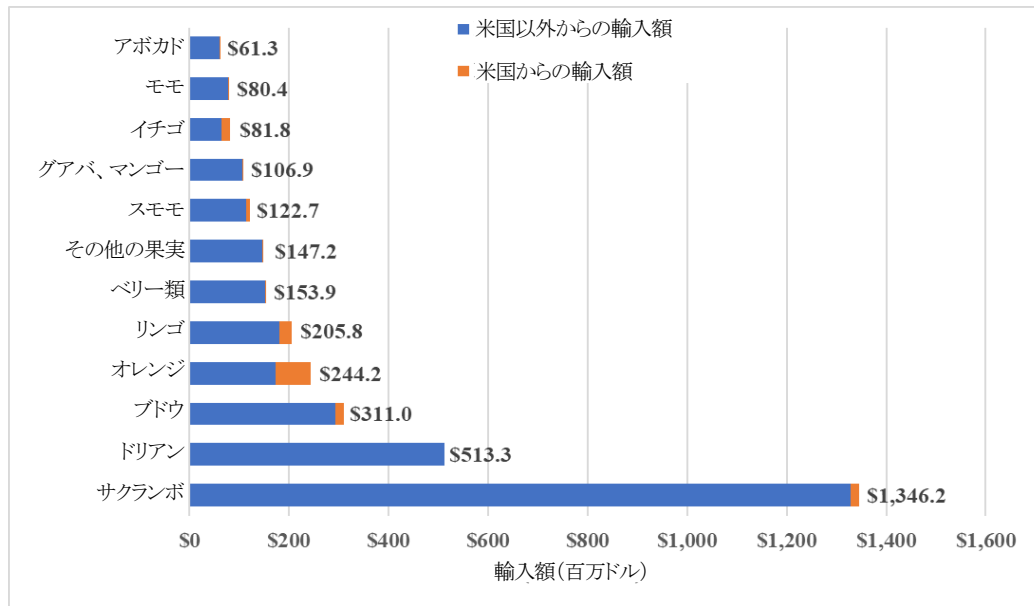
香港市場における米国産果実の販売額はオレンジが圧倒的に多いが、リンゴ、サクランボ、ブドウ、イチゴといった他の果実の間でも均等に配分されている。

表1 香港の世界からの生鮮果実輸入額(供給国別)

輸入先国	百万ドル				
	2018	2019	2020	2021	2022
世界	3,161	3,650	3,680	4,492	3,687
(5)米国	347	272	250	214	168
米国のシェア	11%	7%	7%	5%	5%
(1)チリ	1,142	1,385	1,255	1,870	1,579
(2)タイ	462	570	817	916	600
(3)中国	160	147	174	209	202
(4)オーストラリア	240	276	260	244	152

出所: Trade Data Monitor

図1 香港の世界からの主要生鮮果実輸入額(2022年、百万米ドル)

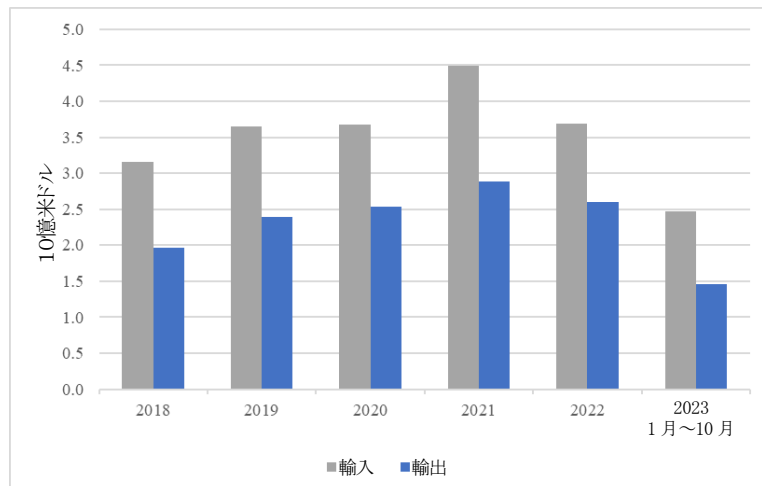


出所: Trade Data Monitor

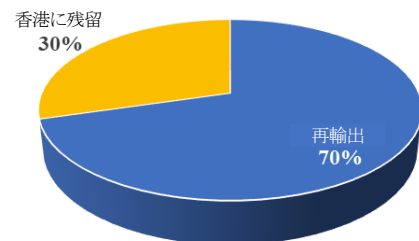
(イ) 香港の輸出

香港は常に、中国、マカオ等の近隣地域との貿易を促進するハブとなってきた。香港は2022年に26億ドル(果実輸入総額の70%)を他の市場に再輸出し、10億ドル(果実輸入総額の30%)が香港内の消費のために留まった。

図2 香港の果実の輸出入総額(10億米ドル)



出所: Trade Data Monitor



2022年には、輸入果実の約69%が中国に、1%がマカオに再輸出された。最も多く取引された果実は、ドリアンとサクランボであった。再輸出が多いことから、市場の需要は、香港の主要な再輸出先である中国本土からの需要に牽引されている。

表3 香港の生鮮果実貿易 主要輸出先

輸出先	百万ドル					シェア 2022
	2018	2019	2020	2022	2022	
世界	1,971	2,395	2,533	2,891	2,598	100%
中国	1,920	2,360	2,496	2,853	2,557	98%
マカオ	25	23	24	28	32	1%

出所: Trade Data Monitor

セクション III 見通し及び販促機会

香港は輸入した果実の多くを中国に再輸出しているが、香港の現地消費市場が依然として10億ドルあることは注目に値する。香港の消費者は食品の選択に目が肥えており、季節性(果実が甘くて柔らかい時期)と原産地(安全性と品質)によって果実を選択する傾向がある。また、香港の消費者は、特に季節商品や特産品の果実に関しては、価格をあまり気にしない。この傾向の良い例は、日本の果実がその価格にもかかわらず香港で人気を博していることである。この点で、米国産の生鮮果実は、安全性と品質の面で高い評価を得ており、この市場で独自の地位を確立している。米国の生産者は、その生産物と持続可能な農法について多くを語る事ができ、有機農産物を提供している。これらは、まさに香港の消費者の心に響くテーマである。さらに、香港では米国農務省の有機認証ロゴが認識されており、香港の消費者は小売店でこうした商品の差別化を求めている。

2023年初頭に香港の国境が全面的に再開された後、香港の経済は回復傾向にあり、2023年には3.2%の成長が見込まれている。2023年下半期は、香港の人々が買い物や食事のために中国本土に押し掛けたため、香港では食品の小売販売額とレストランの売上高の両方が鈍化したが、季節の青果物や特産品は依然として人気の高い商品である。香港経済の見通しの詳細については、当事務所の最新の [輸出ガイド](#) を参照願いたい。

香港における商品紹介の機会

- ・店頭での小売プロモーション(夏): 当事務所は、香港の小売店と提携し、年に約6回の店頭小売プロモーションを開催している。
- ・アジアフルーツロジスティカ2024(9月): 毎年9月に香港で開催されるアジア地域の見本市である。これは米国農務省が承認した見本市であり、当事務所は米国パビリオンを主催している。